

「閉会挨拶」

株式会社 MTI 常務取締役 岩野 淳一

本日は、長時間にわたり、Monohakobi Techno Forum 2016 に参加頂き、誠に有難うございました。

本日の内容を少しだけ振り返りますと、“船舶管理会社との連携による船舶機関データ活用の取り組み”では、管理会社と本船において、どのように情報共有を図り、“見える化”を進めるのか、その一歩目である、管理会社が利用しやすいダッシュボード作りの取り組みなどについて、まだまだこれからも改善を継続しなければならない段階ではありますがご説明させていただきました。この“見える化”を進めて、管理会社と本船の判断業務に活かし、予防保全や効率化に活かすことを目指すものです。

“NYK自動車物流事業への技術貢献”では、今年は、ややターゲットを絞って測位技術の現場への適用に関して、現場ならではの、というトピックスを含めご紹介させていただきました。現場に密着しながら、付加価値を創出し、NYKグループがお客様に選んで頂けるように貢献したいと考えております。

3 番目の報告では、手前味噌ではありますが、弊社の保有する大型三次元振動台の多様な用途を紹介させていただきました。最近では海外の方々にも現場を紹介する機会などもありました。何かご用命、ご相談がございましたら是非、弊社の営業グループにコンタクト頂ければ幸いです。

“シンガポール支店の活動及び国際連携プロジェクトのご紹介”では、具体例のご紹介と、なぜ、力を入れるのかという背景についてご説明させていただきました。

また、安藤から説明させていただきました“船舶IoT、ビックデータへの取り組み - 現状と今後”では、サイバーセキュリティへの対策を含め、その全体像について述べさせていただきました。

“新たな機関事故予防保全技術の開発”では、共同研究として、複数のメーカー、造船所との新たな取り組みについて、始まったばかりではありますが、紹介させていただきました。

この最後に報告させていただきました共同研究を含めて、複数の共同研究プロジェクトを現在も進めております。我々は、ものはこびを生業とする企業グループであるため、多くのプロジェクトで、造船所、製造メーカー、船主、船舶管理会社、他の研究機関など各方面のプロフェッショナルの皆様のご支援・ご協力を必要としております。“オープンコラボレーション”で、研究・開発を進めることで、単独では得られない付加価値をお互いが得る＝Win+Win を実現できると確信しています。（やや話がずれますが、MTI社内でもNYKグループ内外の様々な組織から参加している多様なメンバーが活躍しており、そのことが我々MTIの強みとなっております。）

本日報告させていただきました事例を含めMTIが進めている研究には、皆様もお気づきの通り“そんなにうまくいかない。一筋縄ではいかない。”話がいっぱいあります。

過去を含め失敗の歴史、チャレンジの歴史であります。しかしながら、失敗、チャレンジがないところには、次のブルーオーシャンは見えてこないと我々は考えております。

そのような中、引き続き皆様の温かいご支援をこころよりお願い申し上げます。

本日は、ご多忙の中、ご来場いただき誠に有難うございました。